

委員会報告

所管事務調査

総務文教常任委員会

調査日 11月17～18日
調査地 二本松市
会津若松市

小学校統廃合について

二本松市旧東和町地区



河東学園小学校を見学

平成17年12月、二本松市に合併した旧東和町の7つの小学校は、平成8年に旧東和町小学校統廃合検討委員会が組織されてから14年を経て、新設の小学校に来年4月に統合します。

旧東和町小学校統廃合に当たって次の3点について説明がありました。

- ①住民理解を得るまでの過程については、旧小学校区ごとの懇談会など
- ②準備委員会の設置については建設協力会、校章校歌検討委員会など
- ③スクールバスの運行については、コミュニティバス（福島交通に委託して運行するバス路線）で対応、対象は通学距離2 km以上です。

会津若松市河東地区

河東学園小学校は、旧河東町の3つの小学校が統合され、将来は、幼稚園と中学校を併設する計画です。統合経過は平成10年に学校施設検討委員会を立ちあげて9年後に統合になりま

した。その間住民の理解を得るために各地区懇談会や準備委員会を行いました。校舎は、新設され、最新設備を整えておりました。

国見町の統廃合計画は、平成24年度を目標としています。短い期間での統廃合計画です。今後、早急に総合的な取り組みをしていかなければならないと強く感じました。

産業厚生常任委員会

調査日 11月12～13日
調査地 道の駅「たまかわ」
道の駅「にしあいづ」

道の駅を調査

30坪の売店で年商2億円道の駅「たまかわ」は福島空港のすぐ近くでありました。想像していたよりも小さく、おそらく日本一お金をかけない道の駅ではないでしょうか。

しかし道の駅としての役目、玉川村の情報の発信地



「いちい」代表の齋藤フミ子さんと

としては相当なものではないかと思えます。それは売上げに現れています。

年商2億円、30坪の売店での2億円の売り上げは日本一ではなからうかと駅長は言っておりました。場所は福島空港の近くと言っても山の中で、国見から見れば非常に悪い条件だと思います。

また、伸ばしてきた理由には商品開発に力を入れてきたことと、外販に力を入れてきたこととです。商品開発にはトマトジュースやサルナシ酒など現在までに300種類開発したとのこと。外販は首都圏で

年間300回ほど物産展を開いて販売しているそうです。

新鮮ミネラル野菜が目玉翌日は道の駅「にしあいづ」です。そこにはレストラン「いちい」代表の齋藤フミ子さんとミネラル野菜生産組合など5名の女性の役員が待っていてくれました。この目玉は新鮮ミネラル野菜の直売と、野菜を使った薬膳料理です。

また、この西会津町は、沖繩の宮古市と友好都市にあり、駅内には沖繩の物産コーナーがあり、沖繩ならではの物品が並び目を引きました。

今回の調査で感じたのは、一度休憩やトイレタイム、また、買い物に寄っていただいた方々に再度寄っていたり、すなわちリピーターになっていただくこと、その仕組みにするのが道の駅の成功につながる一番のポイントではないかと感じ調査を終りました。